生物工学研究所

平成29年7月21日(金)に生物工学研究所においてグラジオラスの現地検討会を開催 しました。当日は主産地から生産者、県グラジオラス球根協会、JA 担当者など計 25 名の 参加があり、育種ほ場において有望系統や育成中の系統について検討しました。育成の早 い段階から現場の声を取り入れることができ、関係者が一体となったオリジナル品種の育 成につながる有意義な検討会となりました。

## 1 有望系統等の評価について

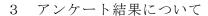
- ・ほ場において有望系統や選抜中の系統を紹介し、有望性を評 価しました。
- ・有望系統「PSY-1」は、県オリジナル品種の「プリンセスサ マーイエロー」の枝変り系統であり、「プリンセスサマーイ エロー」が穂やけに強いため作りやすく、「PSY-1」は色が黄 色単色のため販売しやすい、一般小売り向けの需要が期待で きる等、好意的ご意見をいただきました。



2 新品種「ひたち 10 号」について

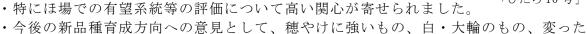
「PSY-1」(左)と「プリンセスサマーイエロー」(右)

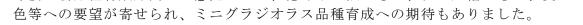
- ・「ひたち 10 号」は今年 7 月 24 日に出願公表された新品種で、促成 栽培で5月に出荷可能なピンク系の品種です。
- ・今年現地試作・試験販売を行い、生産者からは促成栽培で作りやす いとの評価を受け、JA からは 5 月の端境期に出荷でき高単価で販 売できたこと、次年度販売 PR を行いたいとの説明がありました。



・今回の講座の評価として、十分満足と概ね満足の評価を合わせ93% の高い評価をいただきました。









今回の現地検討会では、国内唯一のグラジオラス育種機関として大いに期待されている とともに、県オリジナル品種のバリエーション強化が求められていることを認識しました。 今後も生物工学研究所では、生産者並びに市場の期待に応えられる品種育成と普及を目 指します。



室内検討の様子



ほ場検討の様子



「ひたち 10 号」